太田秀雄さん・成美さん

（太田名部・47歳、11歳）
・漁業は村の第一次産業。エチゼンクラゲに負けない、豊漁の年になりますように。
・何でも自分から積極的に挑戦したいと思います。理科も一生懸命頑張ります。

北田史人さん・理奈さん

（堀内・23歳、23歳）
・漁業によって村の経済が左右されることを考えれば、サケの豊漁をまず祈ります。今年はエチゼンクラゲがきませんように。
・11月に男の子が誕生しました。子育てを頑張ります。

片座亮一さん・佳祐くん

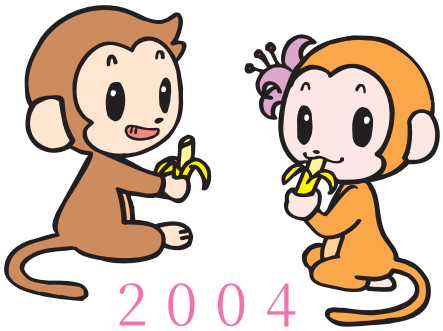
（黒崎・71歳、11歳）
・農業も改革の年と言われています。豊作になって、みんなが喜び合える年にしたい。
・リーダーとなって、下級生たちを引っ張っていけるよう頑張ります。

太田藤次郎さん・組子さん

（太田名部・83歳、47歳）
・今年は、豊漁になるよう景気の回復を願っています。
・家族全員、元気でいい年になりますように。そして、二人の息子、娘に良い縁がありますように祈っています。

生まれた年（年齢）	人数
明治 41 年（95歳）	5人
大正 9 年（83歳）	21人
昭和 7 年（71歳）	45人
昭和 19 年（59歳）	37人
昭和 31 年（47歳）	56人
昭和 43 年（35歳）	41人
昭和 55 年（23歳）	37人
平成 4 年（11歳）	34人
合　計	276人

（平成15年12月25日現在）



い掛かる恐れがあるかもしれないということで、役場の庁用車と久慈消防署普代分署の救急車で児童を誘導して集団下校させたという、一足早い「サル騒動」がありました。

観光用に餌づけされたサル 自然の状態で共生できる道探る

村以外のところでは、観光用に餌づけされたサルが人前に現れたり、里に出て、人間にえさをねだったり、農作物を荒らしたり…。人間を怖がらず、時には、人に襲い掛かったりすることもあるようです。被害に遭っている地域では、いわゆるサル害対策が大きな課題になっています。日本人にとってなじみの深いサルですが、お互いが敵対し合うのは残念なことです。サル害の防止を図りつつ、サルが将来にわたって自然の状態で生息していくことができるよう、共生の道を探っていきたいものです。

ことわざには悪い意味多いされど『桃太郎』主人支える

サルはさまざまな昔話にも登場します。サルにまつわることわざや慣用句もたくさんあります。『さるかに合戦』ではサルは悪役でしたが、『桃太郎』や『西遊記』では、主人を支える名脇役として活躍しました。

ことわざで、誰もが知っているのは「猿も木から落ちる」。これは、その道に優れている人でも、時には失敗をすることがあるということのたとえ。「木から落ちた猿」は、頼みにするものを失ってどうしてよいか分からない状態のことをいいます。木の上を得意とするサルならではのことわざです。

同じくサルの特徴をよくとらえたことわざといえば「猿の尻笑い」。自分の尻の赤いことに気が付かないで、ほかの猿の尻が赤いことを笑う意味で、自分の欠点に気が付かず、他人の欠点を笑うことのたとえです。そのほか「サルまね」「サル知恵」「サル芝居」などの言葉がありますが、どれもあまりいい意味では使われていません。

そもそも「サル」＝「去る」というイメージがよくないのでしょうか。「去る」は「去る」でも、悪運だけは去っていってほしいものです。